

地域づくりは私たちの手で —海女による担い手対策とは—

鳥羽磯部漁業協同組合相差支所婦人部
奥村みき江

1. 地域の概要

私たちが生活する鳥羽市相差町は、三重県のほぼ中央部の的矢湾口部に位置（図 1）し、約 1,700 人が生活している。風光明媚なりアス式海岸が続くとともに、イセエビやアワビに代表される海の幸が豊富なことから、年間 500 万人の観光客が鳥羽市を訪れている。

平成 14 年 10 月には隣接する磯部町の 6 漁業協同組合と鳥羽市内の 16 漁業協同組合が合併し、鳥羽磯部漁業協同組合が新たに発足したことから、組合員数は正准合わせて 3,442 名となった。

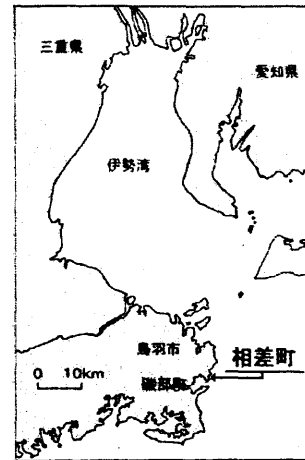


図 1. 相差町の位置

2. 漁業の概要

私たちの地区は沿岸漁業が中心で、大敷網・刺網・一本釣り・海女漁などが営まれている。主な漁獲物は、マダイやスズキ・アワビ・イセエビ・アジ類である。これら栄養豊かな伊勢湾の海水と太平洋の海水が激しく交差する漁場で育った魚介類は日本一おいしいと自負している。

私たちが営む海女漁は、「発祥の地」とも言われており、夏にはアワビやサザエ・ウニ、冬にはナマコなどを漁獲している。また、近年イワガキは海女にとって貴重な収入源となっている。

正組合員は 315 名であるが、一世帯一正組合員制をとるため、実際の漁業就業者は 600 名を超えている。このうち 86 歳から 25 歳まで 222 名が海女漁を営んでいる。

相差支所の H14 年度の水揚げ金額は 3.9 億円で、鮮魚の占める比率は 57% となっている（図 2）。また、海女漁業による水揚げの比率は 25%（0.95 億円）である。このように磯の資源に対

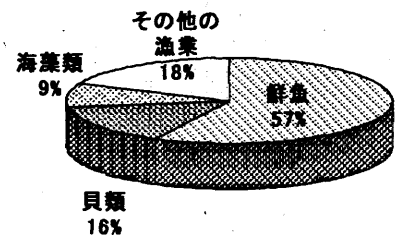


図 2. 相差支所水揚げ金額の比率(H14)

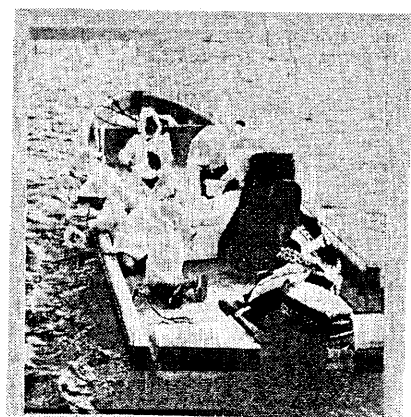


写真 1. 種苗放流風景

する依存度が高いことから、資源管理に対する意識は高く、ヒトデ駆除やアワビなどの種苗放流を積極的に行ってきた（写真 1）。また、種苗放流のみに留まることなく三重県内で取り組まれている「大きくなったらまた会おう」運動を実践し、小型魚の再放流活動を行っている。

3. 研究グループの組織と運営

相差支所婦人部（旧相差漁業協同組合婦人部）は相差町内会婦人部の一翼を担う組織として平成元年に結成、平成 15 年現在の部員数は 256 名である。部長・副部長・会計・理事・監事の合計 23 名が運営を担当し、これまでも、漁場環境の保全や地域の活性化を目的として、海浜清掃・廃油を用いた石けんづくり・EM菌の利用促進・磯祝いと呼ばれる海女の伝統行事・天王くじら祭り・郷土料理の講習会などを積極的に行ってきた。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

私たちの地域では、『夫（とと）ひとりを養えんで一人前の海女とは言えん。』と言われるように、海女に誇りをもって生活している。また、海女のうち 90 名が旅館や民宿のおかみを兼ねていることから、「漁師の暮らしが伝わる」ことを目指して、私たちが漁獲した新鮮な魚介類を地元旅館において提供してきた。しかしながら、資源の減少や魚価の低迷、労働の過酷さなどから、昭和 47 年には 510 名いた海女の数も平成元年には 253 名に減少した（図 3）。このままでは「地域の魅力が失われてしまう」、「町の元気を取り戻したい」との声があがってきた。そこで、私たち女性が担ってきた漁村の文化や海女漁の技術を若い世代に伝えることを目的として、小さな一歩から活動を開始した。以下に私たちの活動の主なものを紹介する。

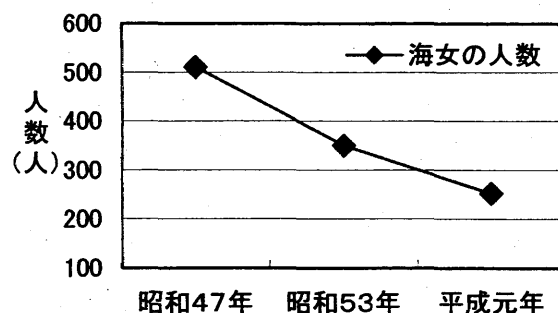


図 3. 海女の人数の推移（相差）
（三重統計情報事務所，2003）

5. 研究・実践活動状況および成果

（1）相差天王くじら祭りへの参加

くじら祭りは、私たち婦人部の設立と同じ平成元年に地域の活性化を目指して始まった。なぜ、「くじら」なのかと言うと、相差では江戸時代鯨組による沿岸捕鯨が営まれていたことや、海の守り神である青峯山正福寺の観音様が鯨の背中に乗って相差に現れたとの言い伝えがあるからである。毎年 7 月 14 日になると、大小の鯨みこしが威勢のよい若衆によって町中を練り歩き、その後、大漁や海上の安全を祈念する海女らの手によって海に入る。これら一連の祭りは、海への感謝の気持ちとともに、私たち海女が地域の文化を担っていると強

く感じるイベントとなっている。

このようなくじら祭りに長野県四賀村との交流が加わったのは平成 3 年であった。毎年くじら祭りには、四賀村の方を招待し、みこしを一緒に担ぎながら、水産物の紹介や漁場環境のことを話し合った。お互いまったく知らない土地の者同士で最初は戸惑いもあったが、理解しようと心がけることで、今では地域全体がうち解け合った交流を行っている。

また、毎年 7 月の夏祭りには私たちが四賀村を訪れている。四賀村は「持続可能・永続的」という言葉をキーワードに生活を見直し、町作りに取り組んでいることから、町にはかわいい花があふれ、女性の目から見てもゴミが落ちていないと感じる村であった。くじら祭りがなければ出会う機会もなかった方達であったが、同じ自然を相手にするもの同士、環境を大切に思う気持ちが良く伝わってきたことを覚えている。

これらの交流から、私たちが婦人部として、町内のゴミ拾いや相差町へ訪れた方が通る道路へスイセンを植え始めた。今では、「ゴミが落ちていたら自然と拾うようになった」とか、「花に水をやってきたよ」という声を聞けるようになっている。

(2) 石神さん春祭りの開催

相差の氏神様である神明神社の参道にひっそりとたたずむ、小さな祠がある。これは、地元から親しみを込めて「石神さん」と呼ばれる女神で、女性の願い事なら必ず一つは叶えてくれると言われている。このような女性の大願成就を願うお祭りが毎年 5 月 7 日に行われている。この日ばかりは日頃から忙しく働く女性の労をねぎらう日で、男衆が食事の用意など一切の家事を行ってくれる。この風習を「全国に発信しよう」、「地域内の交流の場としてさらに活用しよう」との話が出てきた。そこで、昨年「石神さん春祭り」と題したイベントを開催し、「願いを叶えて欲しい女性」をインターネットなどを通じて募集した。そうしたところ、三重県内外から 30 名の応募があり、願い事を披露するなど、地元海女との歓談を行った。積極的に参加していただいた地域外の方との交流は、私たちにとっても良い刺激となり、来年も継続して行うことになった。

(3) 海女のススメ

海女漁は死と隣り合わせという過酷な作業ではあるが、自分で獲物を見つける喜びは何年潜っていても変わらない。しかしながら、若い女性を後継者にしようと思っても、自分の娘には苦勞をさせたくないとの思いもあり、後継者の加入はうまく進んでいなかった。しかし、近年では、都会から嫁いでくる女性が多くなり、何気ない食事時の会話から始めはおもしろ半分潜り始める女性がでてきた。その後は若い女性同士、横の繋がりから、誘い合って潜る若い女性が増えている。今では私たちの海女漁に獲る楽しみだけでなく、技術を伝え

るといふ喜びも加わった。

鳥羽志摩地区の海女の年齢構成と私たちの地区のそれとを比べると、鳥羽志摩地区では、20～30歳代の海女の比率が3.2%であるのに対し、私たちの地区では、11.3%・25名であることが分かってきた。この25名うち都会から嫁いできた女性が17名も含まれている。また、特に私たちの地区では20歳代の海女の比率が6.3%と高いことも分かってきた。この数字には私たち自身も驚きであった。

「若い世代に海女漁業を継いでもらうことが最大の課題」であるとの思いから会合をもったこともあったが、何気ない日常の会話から若い世代の加入が進んでいた。これには、都会から嫁いできた女性の地域に溶け込もうとする努力が多分にあったと感じているが、同時に私たちの海女に対する誇りが伝わった瞬間と確信している。

6. 波及効果と今後の課題

私たちの地域は、以前から漁業と観光業を主体として、他地域との交流を行ってきた。時代が進み、それらが希薄になるにつれ、「何かしなければ」との思いから活動を開始した。しかし、今振り返ってみると私たちの活動は肩に力を入れて行ったものではないと思う。日常生活の中にきっかけがたくさんあった。自分たちにできることから始めればよいことを他地域との交流や都会から嫁いできた女性を通して学んだ。これら学んだことは、さらに自分たちの町を大切にしたいとの思いにつながり、自然を利用した体験イベントや地元の小・中学生を対象としたお魚教室の開催などへ波及している。体験イベントの一例として、平成16年2月17日からツアー旅行で日本を訪れた外国の方を対象とした海女漁見学を実施する。見学当日は、海女小屋にて海女の文化を紹介する予定である。今後は平成17年に中部国際空港が開港することから、私達海女の手で、日本国内外へ向けた積極的な集客交流を実現したいと考えている。

また、都市との交流だけでなく、「自分たちに出来ること」を合い言葉に、都会から嫁いだ女性が地域に根付き、安心して生活できるよう、在宅介護や世代を越えた対話ができるまちづくりをしたいと考えている。

近い将来、私たちに続く世代が相違町に誇りをもって、女性の手で地域をもり立ててくれることを願っている。

	相違地区		鳥羽志摩地区	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
20歳代	14	6.3	2	0.2
30歳代	11	5.0	42	3.0
40歳代	25	11.3	159	11.5
50歳代	48	21.6	281	20.4
60歳代	61	27.5	574	41.7
70歳代	62	27.9	309	22.4
80歳代	1	0.5	11	0.8
合計	222		1378	

表1. 海女の年齢構成の比較

(相違地区 : 相違支所婦人部調べ)

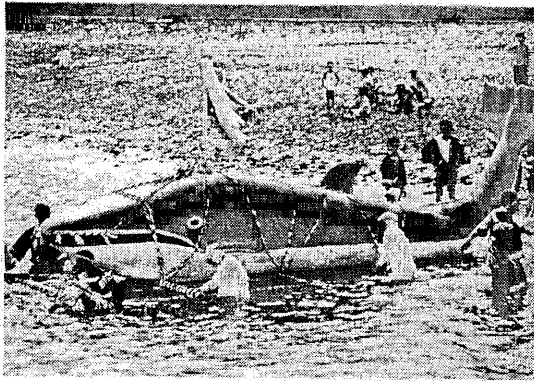


写真. 天王くじら祭り

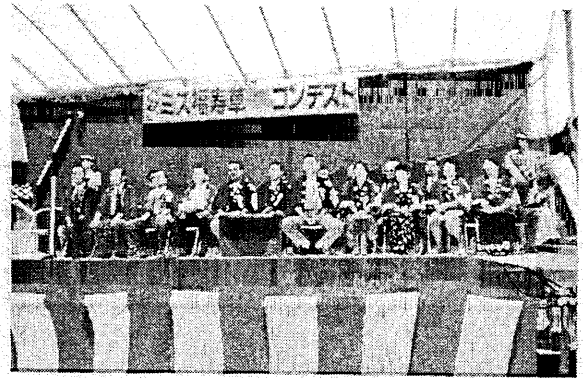


写真. 四賀村における交流



写真. 町全体が参加 (くじら祭り)

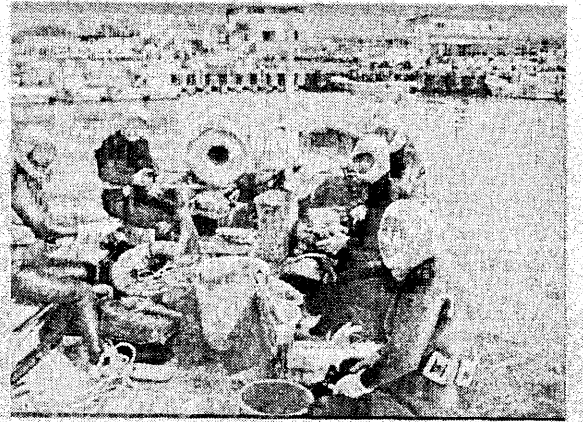


写真. 海女出漁前



写真. 石神さん春まつり

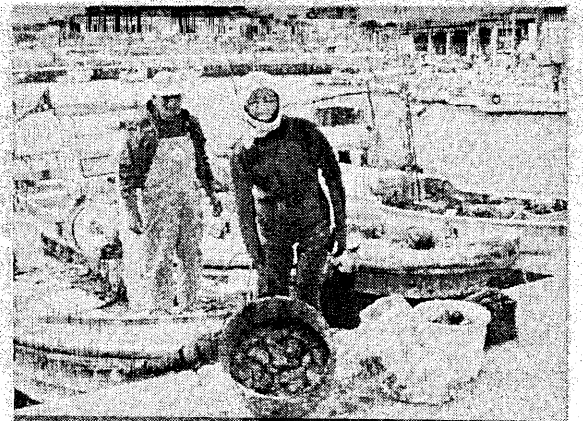


写真. 75歳現役海女

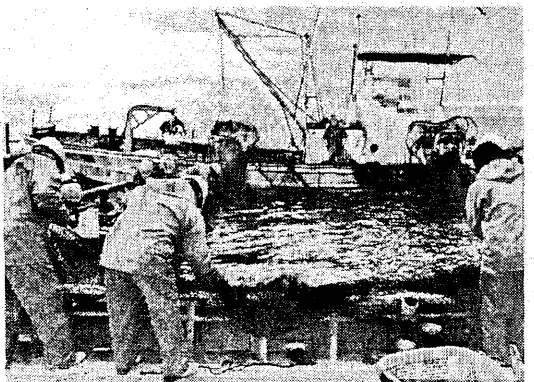


写真. 大敷網 (相差)



写真. ナマコ計測風景 (相差漁港)